

『災害レジリエンスとプラットフォーム学』

～防災学と情報学で生まれるプラットフォームが広げる可能性～

『日本沈没』『シン・ウルトラマン』

クライシス映画の巨匠樋口監督、企業担当者と防災を語る

防災・減災と
復興・回復力は
ICTでどう変わる？SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

情報学と複数領域を連携させ、新しい価値創造を目指すプラットフォーム学。このプラットフォーム学を扱う京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、プログラムの一環として毎月セミナーを開催しています。

第2回の今回は「防災×プラットフォーム学」がテーマ。SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」への貢献や、将来予期されている巨大災害の対策に向けて、災害レジリエンスの構築に取り組む企業担当者、京都大学の研究者、そして映画監督・樋口真嗣氏が集い、語ります。

〈イベント概要〉

- 開 催：2021年8月25日(水)
- 時 間：17:15～18:45(履修生は19:45終了予定)
- 主 催：京都大学プラットフォーム学卓越大学院
- 協 力：京大オリジナル株式会社
株式会社角川アスキー総合研究所
- 事前応募制／オンラインセミナー



お申し込みはこちら
(8月23日17時締切)

登壇者

樋口真嗣氏(映画監督)

荒川剛氏(パナソニック株式会社 ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 総括(兼)Fujisawa SSTマネジメント株式会社 代表取締役社長)

堺淳一氏(One Concern株式会社 洪水・地震エンジニアリングリード(工学博士))

畑山満則 教授(京都大学 防災研究所附属巨大災害研究センター)

原田博司 教授(京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター)



KUSP
Kyoto University School of Platforms

京都大学
プラットフォーム学卓越大学院

セミナー／登壇者

■映画監督 樋口真嗣氏

特技監督・映画監督・映像作家・装幀家。1984年『ゴジラ』にて映画界入り。1995年『ガメラ 大怪獣空中決戦』で特技監督を務めた。主な監督作品は『ローレライ』、『日本沈没』、『のぼうの城』、実写版『進撃の巨人』など。2016年公開の『シン・ゴジラ』では監督と特技監督を務め、第40回日本アカデミー賞最優秀作品賞と最優秀監督賞を受賞。『シン・ウルトラマン』が今年公開予定。



■パナソニック株式会社ビジネスソリューション本部CRE事業推進部 総括(兼)Fujisawa SSTマネジメント株式会社 代表取締役社長 荒川剛氏
パナソニックの企業不動産(CRE)を活用したタウン開発・運営を通じ、社会課題解決型のソリューション開発やサービス創出に従事。暮らしから発想し、産官学・住民共創でサステナブルに進化するFujisawa SSTのプロジェクト推進責任者兼Fujisawa SST協議会事務局長を務める。またタウンマネジメントを行うFujisawa SSTマネジメント代表取締役社長を兼務。



■One Concern株式会社 洪水・地震エンジニアリングリード(工学博士) 堺淳一氏

福岡県出身。東京工業大学工学部土木工学科卒、同大学院土木工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。技術士(建設部門)。カリフォルニア大学バークレー校ポスドク研究員、独立行政法人(現、国立研究開発法人)土木研究所主任研究員、RMS Japan 株式会社 Principal Modeler を経て、現在、One Concern 株式会社で洪水・地震エンジニアリングリード。専門は、橋梁の耐震工学、自然災害のリスクモデルの開発。



■京都大学 防災研究所附属巨大災害研究センター 畑山満則 教授

京都大学防災研究所巨大災害研究センター災害情報システム研究領域教授。東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻博士後期課程修了/博士(工学)取得。2000年より京都大学防災研究所中核的研究機関研究員。以後、同研究所の複数分野での助教授・准教授等を経て現職。阪神・淡路大震災以降、被災地での支援活動を通じてITを用いた災害対応技術に関する研究を推進し、災害情報処理プラットフォームの開発に従事。



■京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター 原田博司 教授

京都大学情報学研究科教授。郵政省通信総合研究所(現 情報通信研究機構)を経て2014年より現職。5G、6G通信システム、IoT用通信システムの研究開発、標準化、実用化に従事。取得国内特許は250件以上。自身が開発したスマートメーター用無線システムWi-SUNは、全世界で数千万台導入されている。



●プラットフォーム学連続セミナーを毎月展開

プラットフォーム学は、情報通信を扱う“情報学”と、農学・医学・防災、文系学術などの複数専攻領域を系統的に連携させ、新しい価値創造を目指す新しい学問で、世界を牽引する新しいプラットフォームを構築できる人材の育成を目標としています。

このプラットフォーム学を扱う世界初の大学院である京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、授業の一環として、連携する企業や外部の講師も招いたセミナーを毎月開催しています。第2回の今回は「防災×プラットフォーム学」です。

●地理情報システムや都市デジタルツインを活用した災害プラットフォームの構築

多くの人々の生活を脅かす震災や豪雨などの深刻な災害が耐えない日本。今後高い確率で発生が予測されている南海トラフ地震などの「国難災害」とも呼べる致命的な事態へ立ち向かうべく、デジタル防災技術を活用した国土強靱化を目標とする議論や動きは、国土交通省などの取り組みにも見ることができます。日本にとって切り離すことのできない災害に対峙できる、レジリエンス(困難から回復できる、しなやかな強さを持った)な都市づくり・まちづくりを考えることは、これからの私たちだけでなく、次の世代を担う子どもたちに安心できる暮らしを確保するためにも必要不可欠だと言えるでしょう。

本セミナーでは、ICTやAI・データサイエンスといった情報通信技術を活用することで、都市が持つ災害へのリスク評価や被害予測シミュレーションは現状どの程度実現しているか、またそれら予測を活用した防災システムやスマートシティといった、災害プラットフォームが社会実装された新たな都市の在り方とはどのようなものなのかを、産学のフロントランナーたちに語っていただくことを通じて、防災・減災の“現在とこれから”を考えます。